

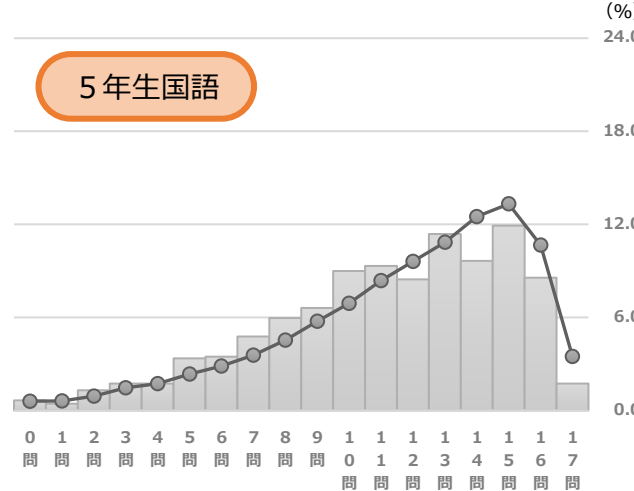
1. 調査の目的
子どもたち一人ひとりが、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力及び問題発見・解決能力等を向上させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実につける。
2. 調査の対象
小学校及び義務教育学校前期課程 第 5 学年（925人参加） 第 6 学年（890人参加）
3. 実施日
令和 7 年 4 月 17 日（木）

教科に関する結果

平均正答数		守口市 (問)	大阪府 (問)	R7 対府比 (R6との差)	R6 対府比
5 年生	国語 (17問中)	11.2	11.8	0.95 (+0.01)	0.94
	算数 (6問中)	3.9	4.1	0.95 (+0.10)	0.85
	理科 (12問中)	6.4	7.2	0.89 (-0.04)	0.93
5・6 年生	わくわく問題 (9問中)	6.1	6.4	0.95 (+0.02)	0.93

正答数分布グラフ（横：正答数、縦：割合）

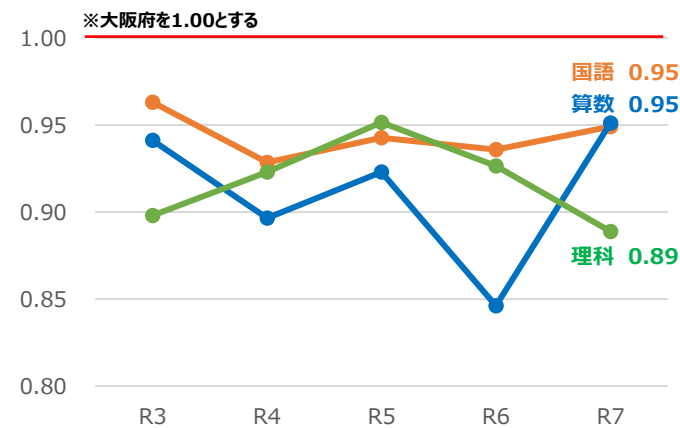
5 年生国語



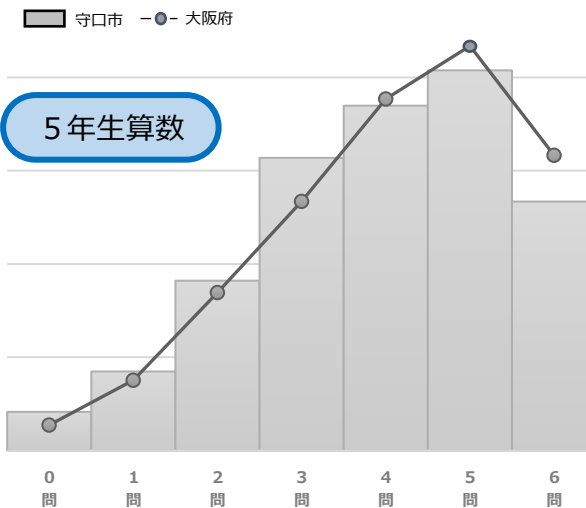
5 年生理科



教科調査（5 年生） 対府比の経年比較



5 年生算数



5・6 年生わくわく問題



4. 調査の内容
5 年生：国語、算数、理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
6 年生：わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
5. 児童への資料提供「ウォッチシート（個人票）」の記載内容
・アンケート結果からわかる児童一人ひとりのよいところ
・各教科とわくわく問題の解答状況から見られる、児童一人ひとりのよいところ
・各教科とわくわく問題のすべての問題について、児童一人ひとりの正答状況とそれに合わせたアドバイス

教科調査における府との比較

5 年生国語

「文を正しく理解し、指示語（『そこ』『これ』など）の指示内容を捉える」問題は約90%の児童が正答できた。しかし、「文中の修飾語と被修飾語の関係を正しく捉える」問題の正答率（69.6%）は、府を7.3ポイント下回った。

5 年生算数

「直方体の入れ物とならない展開図を選び、その理由を記述する」問題の正答率（8.2%）は府と同じ数値であった。題意に適した展開図を選択した児童は66.3%いたものの、その理由が記述できておらず誤答となっている児童が58.1%いることから、自分の言葉で理由を説明するなどの活動を繰り返し行う必要がある。

5 年生理科

「並列つなぎの性質を理解し、電池が 1 つなくなった際の回路について考える」問題の正答率は60.5%で府を0.6ポイント上回った一方で、「気温を測るとき温度計の正しい使い方について」選択する問題は正答率が34.7%であり、府を20.6ポイント下回った。実験・観察など、児童が体験を通して理解する活動について、単元の中でその機会が適切に設定できているか、あらためて見直す必要がある。

5・6 年生わくわく問題

近年、さまざまな場面で活用されている「ナッジ」（矢印のマークなど）を題材とした問題が出題され、資料や会話の内容を適切に読み取る問題では、正答率が61.6%で、府を0.5ポイント下回った。一方で、アイデアを言葉にして、条件にあわせて記述する問題（大問 3（3））では、正答率が45.5%で、府を7.9ポイント下回っており、教科調査同様、自分の考えを論理立てて説明することに課題が見られた。

「ナッジ」を題材とした問題（抜粋）

ねえ、気づいて？ わたしもあきとさんも矢印のマークの上に立っているね。

みさき

【矢印のマーク】

ほんとだ。だれかに言われたわけではないのに、矢印のマークの上に立っていたよ。

あきと

大問 3（3）
「みんなが気持ちよく過ごすため」に、あなたならナッジの考え方を生かしたどんな工夫を提案しますか。次の【条件】に合わせてかきましょう。

【条件】
○【ねがい】のらんに、みんなが気持ちよく過ごすために、みんなにしてほしいことを1つ書きましょう。
○【工夫】のらんに、【ねがい】をかなえるために、どうするかを言葉や絵を使ってかきましょう。
○【みんなの行動が変わる理由】のらんに、なぜその【工夫】でみんなの行動が変わるのかを文章で書きましょう。

（例）
【ねがい】 使わないときは電気をこまめに消してほしい
【工夫】 電気を消すとニコニコの笑顔が現れるように、スイッチに顔のシールをはる。

スイッチオン

スイッチオフ

【みんなの行動が変わる理由】
スイッチをオフにすると笑顔が見られて、楽しくなるから。

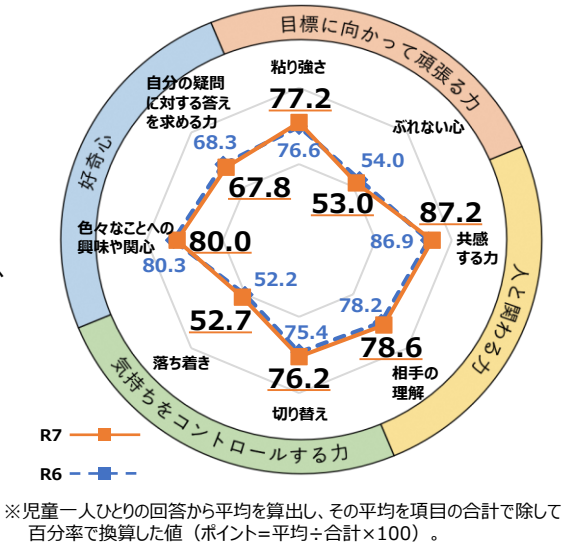
未来に向かう力と好奇心について

子どもの将来には、テスト等で測ることのできる「学力」の他に、非認知能力が大きく関わっています。大阪府では、これからの予測困難な社会を生き抜くために必要な、「①目標に向かって頑張る力」「②気持ちをコントロールする力」「③人と関わる力」の3つを「未来に向かう力」と定義しています。

「共感する力」や「色々なことへの興味や関心」の項目は、80ポイントを超える肯定的回答があり、「粘り強さ」の項目は、昨年度よりもさらに伸びが見られます。

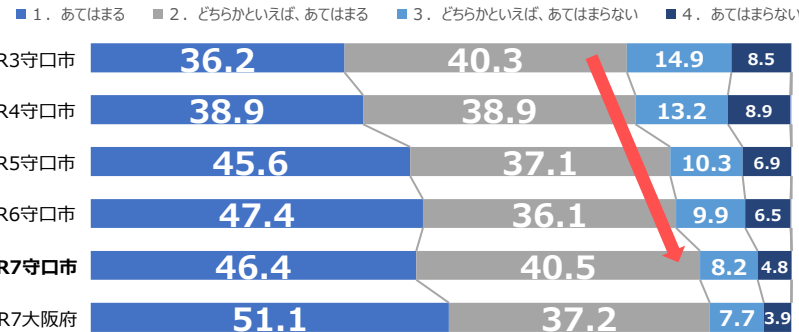
守口市の子どもたちは、他者と関わりながら、自分の興味や関心のあることに取り組む力があると言えます。これは、子どもたちが安心して自分の個性を表現し、仲間とともに学びあえる丁寧な学級づくり・授業づくりの大きな成果と考えられます。

一人ひとりの子どもが自分らしさを発揮し、その力をさらに伸ばしていけるよう、子どもたちの挑戦を支えていきたいと思います。

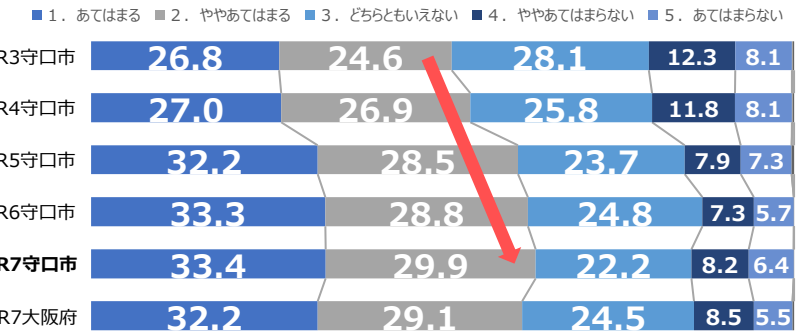


児童アンケート（5・6年生）R3～R7までの経年比較

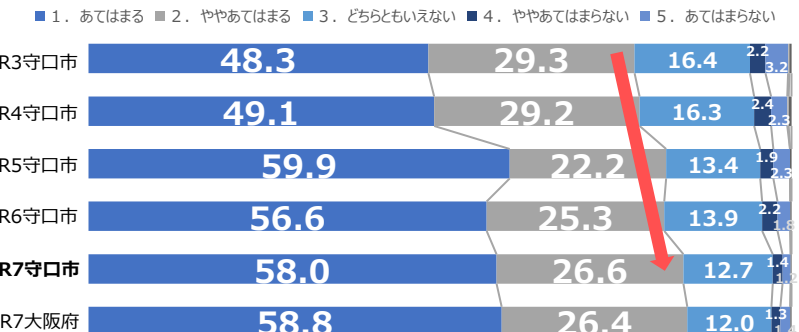
「自分にはよいところがある」と思う



どこに行っても、新しい物事や経験を探す

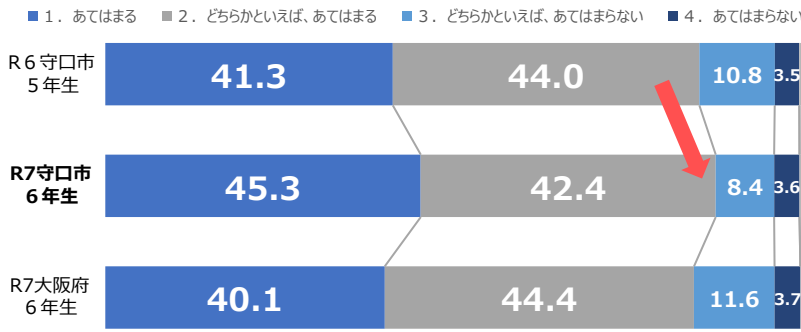


あなたの学級は、友だちのよいところを互いに認め合える

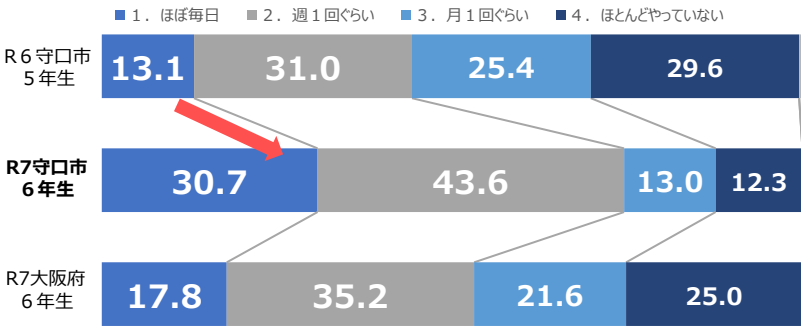


児童アンケート（6年生）の同一集団による経年比較

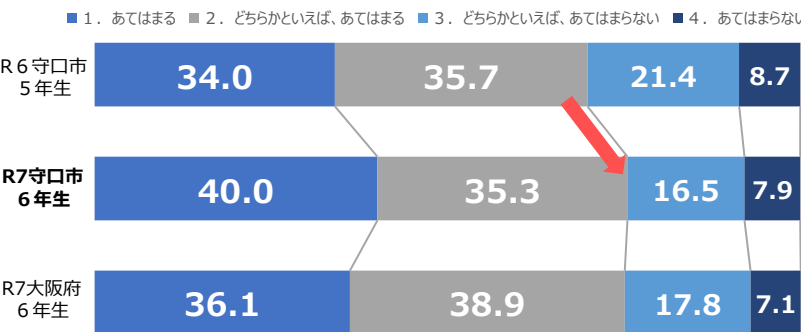
その時間のめあてを意識して学習している



授業で、コンピュータやタブレットを使って、自分の考えを書きこんだり、友だちと意見交流したりすることはどれくらいありますか



その時間に学んだことについて、ふり返りをしている

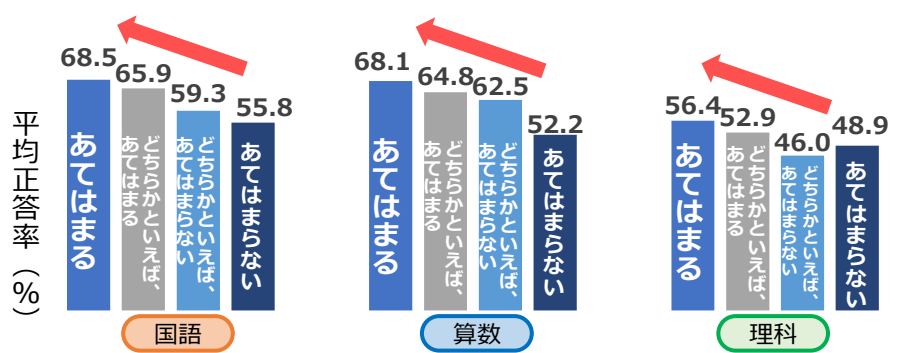


児童アンケートから

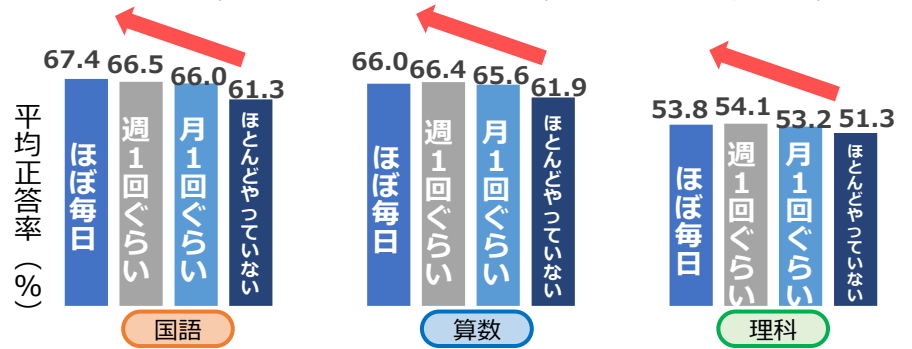
- ◆「『自分にはよいところがある』と思う」の項目で、肯定的な回答が増加しています。児童が自分らしく学んでいくために、自分のよさや可能性を認識することはとても大切なことです。
- ◆「どこに行っても、新しい物事や経験を探す」の項目で、肯定的な回答が増加しています。様々な社会的変化を乗り越えていくために、前向きにチャレンジする姿勢は重要です。今後も児童の探究心を伸ばせるような教育活動を進めてまいります。
- ◆「あなたの学級は、友だちのよいところを互いに認め合える」の項目でも、肯定的な回答が増加しています。クラスメイトと認め合い、高めあえる関係性を築けることは、協働的な学びを進めていく基盤となります。
- ◆「その時間のめあてを意識して学習している」、「授業で、コンピュータやタブレットを使って、自分の考えを書きこんだり、友だちと意見交流したりすることはどれくらいありますか」「その時間に学んだことについて、ふり返りをしている」の授業に関わる項目で、同一集団での肯定的な回答の伸びが見られます。肯定的な回答をしている児童ほど、教科調査の平均正答率が高い傾向が見られます。

児童アンケート（5年生）と教科調査のクロス集計

その時間のめあてを意識して学習している



授業で、コンピュータやタブレットを使って、自分の考えを書きこんだり、友だちと意見交流したりすることはどれくらいありますか



その時間に学んだことについて、ふり返りをしている

